

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	ほっぺるランド横浜岡野
経営主体(法人等)	株式会社テクノ・コーポレーション
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒220-0073 横浜市西区岡野2-6-6 I S Aビル2階
設立年月日	平成26年4月1日
評価実施期間	平成27年10月 ～28年2月
公表年月	平成28年8月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
【施設の立地・特徴】 1. 沿革・環境 ほっぺるランド横浜岡野は、平成26年4月に1歳児から就学前児童を対象として開設した保育園です。定員は60名で、現在50名が在籍しています。設置法人は株式会社テクノ・コーポレーションで、育児支援や家庭総合支援事業コンサルティングを展開しています。園までの最寄りの駅は相鉄線平沼橋駅で徒歩7分、交通機関の要の横浜駅からも徒歩15分程の利便性の良い場所にあります。園周辺は新しいマンションが増えてきていますが、古くからの工場や商店など昔の面影も残っている地域となっています。 2. 特色 園の入っている5階建てビルの裏手にある人工芝を敷き詰めた園庭での遊びのほか、近隣には大小の広場や公園が点在し、散歩や園外活動に利用しています。また、ビル内のテナント（高齢者デイサービス事業所、一般企業）と定期的な交流を図っています。 【特に優れていると思われる点】 1. 保護者の満足度が高いこと 平成26年4月開園の当園は、アンケート結果で日常保育「遊び」で満足度89%、日常保育「生活」で同96.5%（おむつ外し項目を除く）、園と保護者の連携・交流で同88.4%といずれも高い評価を得ています。これは下記事項の総合効果によります。 （1）保育サービスの中心的課題の評価項目実施内容（評価領域Ⅱ）で高い評価を得ていること。 （2）保護者からの相談、個人面談、保育参観などへの対応に配慮していたこと、および玄関にソファを2台置き、サロン風にして、園と保護者、保護者間の情報交換の場になっていること。 （3）職員の保護者や子どもたちへの言葉遣いが丁寧で綺麗なこと。 2. 職員の日常的な職務連携 園長と主任は日々積極的に保育室に入り、職員とコミュニケーションを取りながら、きめ細かに実地指導を行っています。その結果、職員同士互いに日常的に連携を密にして、他クラスの活動も把握して、散歩先で一緒に遊ぶ時間を設けたり、毎週月曜日を縦割り保育の日とし、朝の会や正月遊びなどの行事を全	

園児で楽しんだりしています。このように園長以下職員が連携を密に図り、円滑な園運営が行われています。

3. 園に対する理解促進のための取り組み

第三者委員の自治会長と民生委員を園行事に招待しているほか、年に2回園が主催する運営委員会に出席を得ています。話し合いを通し園への理解を深めてもらったり地域の情報を得たりと、今後園の専門性を活かした地域支援につながるようにしています。また、テナントビルの2階にある園の特徴を活かし、同ビル内の高齢者デイサービス事業所を訪問し、4、5歳児が歌や合奏披露するなど定期的に交流しています。ビル内の他の一般企業からお誘いがあり、4、5歳児が造形教室に参加するなど、地域と子どもたちの交流は徐々に進んでいます。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 保護者に対する園の基本理念や方針の周知の検討

保護者アンケートで、「園の基本理念や基本方針の認知」の設問に「全く知らない」「あまり知らない」「どちらともいえない」の回答合計が34%ありました。園では入園説明会や年度末の進級説明会などを利用して保護者に説明していますが、保護者の十分な理解には至っていません。更に園だよりやクラスだよりに記載したり、行事に絡めて説明していくなどの工夫による認知度の向上が期待されます。

2. 1歳の新入園児に対し主担当保育士を決めることについての検討

1歳の新入園児に対し、個別の主担当保育士は特に決めていません。乳児は特定の大人とのアタッチメントを通して、人への信頼関係を得ていくことの重要性を考え、主担当保育士を決めることについて検討が期待されます。

3. 開設時の職員構成

当園開設後、2014年度に5名、2015年度に6名の職員が退職しています。当園開設時からうち8名の退職は予定されていたとのことですが、特に新設園に入園する子どもや保護者にとっては、担当職員の短期退職・交代は大変不安を感じるものです。その点について今後の改善を期待します。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重	・設置法人の「保護者の皆様が生き生きとゆとりを持って毎日が送れるように、お子様の健全な育ちと保護者の皆様の仕事と育児の両立を同時に実現する」という保育理念と「子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を守る」などの保育方針、保育目標「生きる意欲のある子」「心豊かな思いやりのある子」「想像力と創造力の豊かな子」「友だちと楽しく遊べる子」を掲げており、子ども本人を尊重したものとなっています。これらは設置法人内全保育園で共有しています。職員は入社前研修を受け、基本方針の理解をした上で実践につなげています。 ・職員は子どもの目線で優しくゆっくりはっきりとした言葉遣いで子どもに接しています。まだ言葉のコミュニケーションができない子どもたちには指差しや表情で気持ちをくみ取るために、日常的な信頼関係を築く支援をしています。子どもの人権を尊重する大切さについて、職員会議で話し合い共有しています。 ・守秘義務について職員は入社時に説明を受け、誓約書を交わしています。実習生受け入れ時にも説明をしています。保護者へ入園時に個人情報取り扱いの説明をして、「子どもの写真掲載等に関する承諾書」の提出を得ています。 ・日常的に子どもの気持ちや言葉を重要視して、遊びや順番、名簿で性別による区別をしていません。保護者への対応は家庭での役割の固定観念を持たず、家族状況
----------------	--

	を踏まえて対応しています。
2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	・保育課程は設置法人が作成していますが、健康支援、環境衛生管理、安全対策事故防止、保護者地域支援、研修計画、小学校との連携、自己評価の項目は、平成26年4月の開園にあたり園長が中心に作成しています。今年度初めに常勤職員で見直しを行い、保護者・地域などへの支援項目に連携園との交流、地域への夏祭りのお誘い、同ビル内テナントとの交流を追加しています。 ・園舎内は衛生マニュアルや掃除当番表に基づいて職員が毎日清掃をしているほか、気づいた時はその都度行い、清潔な環境を保っています。 ・1、2歳児クラスは個別指導計画を作成しています。幼児についても配慮や支援が必要な子どもには個別指導計画を作成したり、保育日誌の個別記録欄を活用しています。担任が作成した計画は、職員会議で共通事項として話し合い、ほかの職員からの意見も参考にして柔軟に変更、見直しを行っています。 ・子どもの成長や興味に合わせておもちゃを用意しています。現在おもちゃの量や種類は十分とは言えませんが、開園から2年目を経過し、少しずつ増やしています。保育室にコーナーをつくり、グループでままごとやブロック遊び、おもちゃで一人遊びを楽しんでいます。 ・プランターで野菜を育て収穫物をみんなで食べたり、スタンプなどの製作に活用しています。カブトムシや幼虫を飼育観察し、生き物を大切にする気持ちを自然に学んでいます。 ・乳児のかみつきやひっかきは職員がすぐに止めに入ります。幼児のけんかには職員は見守りながら子ども同士お互いの気持ちを伝えあいながら解決できるようにしています。 ・毎週月曜日を縦割り保育の日とし、朝の会を全園児で行ったり、散歩先で一緒に遊ぶ時間を設けたりと、異年齢で関わる活動を通して育ちあえるようにしています。 ・園では保護者に対し「いってらっしゃいませ」「おかえりなさいませ」など丁寧な言葉遣いで接しています。子どもたちに対しても温かくきれいな言葉遣いを心がけ、子どもと信頼関係を築くよう園長が指導しています。 ・職員は子どもの様子を見ながら、盛り付け量を調整するなど個々に対応し、完食の喜びを感じられるようにしています。献立は季節感を大切にし、旬の食材を使用しています。毎月行事や季節に因んだメニューがあります。彩りや盛り付けを工夫し食欲が湧くようにしています。 ・眠れない子ども、眠くない子どもに職員は眠りを強要しませんが、体を休めることの大切さも併せて伝えています。1、2歳児は10分ごとにチェック表に呼吸のチェックをしています。姿勢やタオルなどが顔にかからないように見守っています。 ・自立している子どもは自分のペースでトイレに行っています。トイレトレーニングは保護者との連携を密にとっています。失敗してしまった時には子どもの気持ちを傷つけないように対応しています。

	・送迎時のやりとり、懇談会、個別面談、保育参観、園行事など保護者との交流の機会を設けています。全園児個別の連絡ノートがあり、1、2歳児クラスは毎日やりとりをしています。3～5歳児クラスは、必要に応じ様子を伝え合っています。園だよりなど毎月の配付物でも情報提供をしています。また、玄関にソファを2台置いてサロンを作り、保護者間の交流や情報交換の場になるようにしています。
3.サービスマネジメントシステムの確立	・入園時に把握した生育歴は児童票に個別ファイルしています。入園後の子どもの成長発達記録は、健康診断表、発達記録などに記録しています。1歳児は毎月、2歳児は2か月、3～5歳児は3か月ごとに発達状況を確認し、経過記録に記録しています。記録内容は書庫に保管し、全職員が共有できるようにしています。 ・職員は、発達支援、虐待、アレルギーといった配慮が必要な子どもについて研修で得た最新の情報を日々の保育に活かしています。毎月職員会議の中でケース会議を行い配慮点や関わり方が適切かどうか話し合っており、議事録に記録しています。横浜市中部地域療育センターの巡回指導を得ています。 ・意見箱、行事後の保護者アンケートなど意見や要望の把握に努めています。さらに職員は送迎時に保護者に積極的に声をかけ、要望を聞くように心がけています。寄せられた意見は「クレーム処理ノート」ファイルに記録しています。クレームの内容だけでなく、対応方法や対策を記入して保管管理しており、今後に活かすこととしています。他機関の苦情解決窓口として横浜市福祉調整委員会の連絡先を玄関に掲示しています。 ・健康管理・衛生管理・安全管理に関する各マニュアルを整備し、マニュアルに基づいた対応や訓練を行っています。行政、医療機関、横浜市中部地域療育センターなど、必要な関係機関・地域の団体をリスト化しています。
4.地域との交流・連携	・設置法人のホームページのほか園の行事へのお誘いは自治会の掲示板を利用し、情報を発信しています。園の夏まつりには数組の地域の方の参加がありました。西区区民まつり際には西区認可保育所などの案内パネルを展示しています。 ・夏まつりに自治会長や民生委員を招待しています。同ビル内の高齢者デイサービス事業所や一般企業との定期的な交流の機会を持っています。 ・散歩コースに住宅展示場の広場や大きな商店街、地形を生かしビルの屋上部分が公園となっている場所など様々な地域環境の場を取り入れて、地域の人たちと挨拶を交わし、顔なじみになっています。 ・利用希望者の問い合わせ担当は主に園長で、パンフレットに基づいて説明しています。「電話お問合せ記録表」に問い合わせや見学者を記録しています。見学時には丁寧な説明を心がけているため、1回に3組までの対応としています。見学希望者の都合に応じ柔軟に対応しています。
5.運営上の透明性の確保と継続性	・チェックリストに基づいて職員は年度末に自己評価をしています。職員の自己評価を基に職員会議で話し合い、園全体の課題、提案を出し園の自己評価を行っています。結果はファイルして玄関の棚に常置しており、保護者はいつでも確認することができます。 ・職員が守るべき法・規範・倫理などは常勤職員用と非常勤社員用の就業規則で明文化されており、職員は入社時研修により周知しています。設置法人としてコンプライアンスプログラムに基づいた運営をしています。

	・園の経営、運営状況は保護者から求めに応じて公開することとしています。 ・主任は職員一人一人の性格やタイプを見極めながらコミュニケーションを図っています。積極的に保育に入るなど現場と関わりを持ちながら、園全体の保育を把握し、職員に適切な助言を行ったり相談に乗りながら良好な状態で仕事に取り組めるように配慮しています。 ・園の中長期的な視野に基づいた方向性について今年度計画を策定しています。ビジョンとして「保育士の人材育成及び質の向上」「職員が生きがいを持てる職種」「地域との交流連携」「保護者のニーズの把握について要望や苦情に適切な対応を図る」「安全管理」の5項目を定め取り組み始めています。
6.職員の資質向上の促進	・実習生受け入れに際しては「実習記録」に記録をしています。全クラスを経験できるようにプログラムし、各担任との毎日の振り返り、日誌の添削のほか、実習最終日に反省会を開き、園長、主任も出席し意見交換を行っています。 ・設置法人が毎年社内研修計画を作成・実施しており、常勤職員、非常勤職員を問わず参加することができます。職員は研修レポートを提出し職員会議や園内研修などで報告し、資料を回覧するなど実践に活かす努力をしています。業務マニュアルは全職員に配付しています。 ・年間・月間指導計画、週案、保育日誌には評価・反省の欄があり、評価や振り返りをする書式が定型化されています。振り返りの記録には子どもの育ちの様子を丁寧に観察し、職員の関わり方や子どもが遊びやプログラムに意欲的に取り組む姿を書き込んでいます。指導結果を振り返り、評価・反省をして結果を職員全員で話し合い、次の指導計画に反映させています。 ・園長は可能な限り、主任・現場職員に権限を委譲しています。緊急時の対応処置についての最終的結果責任は園長が負う体制になっています。「行事計画書（及び反省）」の書式があり、職員の意見・反省を提出しています。また、職員意見箱を設置し、それを利用して意見や提案ができる仕組みがあります。

事業所名: ほっぺるランド横浜岡野保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

評価機関による評価



3つ: 高い水準にある、2つ: 一定の水準にある、1つ: 改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅰ－１ 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	・設置法人の「保護者の皆様が生き生きとゆとりを持って毎日が送れるように、お子様の健全な育ちと保護者の皆様の仕事と育児の両立を同時に実現する」という保育理念と、「子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を守る」などの保育方針、保育目標として「生きる意欲のある子」「心豊かな思いやりのある子」「想像力と創造力の豊かな子」「友だちと楽しく遊べる子」掲げており、いずれも子ども本人を尊重したものとなっています。これらは設置法人内全保育園で共有し、職員は入社時に研修を受け、基本方針の理解をした上で実践につなげています。 ・保育課程は設置法人が作成していますが、健康支援、環境衛生管理、安全対策事故防止、保護者地域支援、研修計画、小学校との連携、自己評価の項目は、平成26年4月の開園にあたり園長が中心に作成しています。今年度始めに全常勤職員で見直しを行い、保護者・地域等への支援項目に連携園との交流、地域への夏祭りのお誘い、同ビル内テナントとの交流を追加しています。非常勤職員にも事前に意見を聞き、常に子どもの姿に合わせたものになるように話し合っています。 ・保護者には入園説明会で、保育理念に沿った園長の考え「遊びの中から子どもたちが学べる保育」などを話しています。保育課程に基づいた各クラスの年間指導計画・月間指導計画への流れについてはクラス懇談会で担任が保護者に説明しています。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに前年度の反省をふまえた年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。 ・クラス全体で活動する際には子どもたちに分かりやすいように説明し、子どもが納得して主体的に取り組むことを大切にしています。子どもの遊びこんでいる様子や表情から子どもの思いを汲み取り、言葉で表現できる子どもからは、意見や要望を聞きとっています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



・入園前に担任予定職員を中心に、「児童の健康状況チェックリスト」を用いて親子面接を行います。得た情報は事前提出書類と一緒に個人別にファイルし、全職員が日々の保育上必要に応じて確認できるようにしています。

・職員会議、クラス会議では、子どもへの配慮点や保護者の情報などを含めて報告し合い、全職員が共通認識を持つようにしています。

・入園前の面談で短縮保育の必要性について説明をしています。ならし保育の予定表がありますが、保育時間、期間など無理のないように設定しています。

・個別の主担当保育者は特に決めていません。配慮が必要な子どもには担当を決めて対応しています。子どもたちは日々の関わりの中でその子どもが一番安心する職員から順次関係性を築いています。

・全園児個別の連絡ノートがあり、1、2歳児クラスは毎日その日の子どもの様子などを丁寧に記載し、保護者との連携を密にしています。3～5歳児クラスは、必要に応じ様子を伝え合っています。

・年度末に進級後の保育室に担任とともに移り、新しい環境に馴染めるようにしています。保育室出入り口のほか、保育室内からもクラスを行き来できるので、全職員で関わるように努め、在園児の不安を少なくする配慮をしています。

・クラス会議で担任同士で指導計画の練り直しなどを行っています。会議には主任が出席しています。職員会議においても子どもの発達状況を話し合い、必要に応じて園長が助言をしています。

<コメント・提言>

・乳児は特定の大人とのアタッチメントを通して、人への信頼関係を得ていくことの重要性を考え、主担当保育者を決めることについて検討が期待されます。

I-3 快適な施設環境の確保



・園舎内は衛生マニュアルや掃除当番表に基づいて職員が毎日清掃をしているほか、気づいた時はその都度行い、清潔な環境を保っています。

・各クラスに2台ずつ空気清浄機を設置しています。温・湿度計を備え、9時、13時、17時と3回日誌に記録しています。保育室の窓は大きく、陽光を十分に取り入れることができます。

・職員は他クラスの保育内容を確認しながら活動したり、必要以上に大きな声を出さないように注意しています。

・遊びによって低いおもちゃ棚を移動したり、机を出して小さなグループで遊べるようにしています。

・食事と午睡の場は同じですが、昼食後速やかに午睡の場を作っています。

・朝と夕、土曜日の合同保育時は、2歳児クラスを使用しています。お正月遊びなど全体活動時は4、5歳児クラスを使用しています。2～5歳児保育室を仕切る壁（パーテーション）を取り払って、夏祭り・おゆうぎ会などの園行事を行っています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・1～2歳児クラスは、毎月個別指導計画を作成しています。幼児についても配慮や支援が必要な子どもには個別指導計画を作成したり、保育日誌の個別記録欄を活用しています。担任が作成した計画は、園長のアドバイスを取り入れています。また個別の課題がある場合は職員会議で共通事項として話し合い、ほかの職員からの意見も参考にして柔軟に変更、見直しを行っています。
- ・保護者には個別指導計画の作成や見直しにおいて、離乳食の進め方やトイレトレーニングなど子どもの状況に合わせて説明し、同意を得ています。
- ・年度末には、年長児の就学する小学校に保育所児童保育要録を持参または郵送しています。
- ・入園時に把握した生育歴は児童票に個別ファイルしています。入園後の子どもの成長発達記録は、健康診断表、発達記録などに記録しています。1歳児は毎月、2歳児は2か月、3～5歳児は3か月ごとに発達状況を確認し、経過記録に記録しています。経過記録は書庫に保管し、全職員が共有できるようにしています。
- ・進級時には、個別ファイルを基に、新旧の担任で申し送りを行っています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもを毎年受け入れています。虐待やアレルギーに関する社内や外部の研修で得た最新の情報を基に職員会議で話し合い、日々の保育の中に活かしています。
- ・エレベーター、バリアフリー構造、多目的トイレ設置など障がいのある子どものための環境整備をしています。
- ・横浜市中部地域療育センターの巡回指導を受けています。障がいのある子どもは職員の援助を受けながらほかの子どもと一緒に活動しています。子どもたちも自然な関係を築いています。
- ・虐待が明白になった場合や疑われる場合は、設置法人本部と中央児童相談所に相談できる体制を整えています。支援に必要な保護者の場合は西区の保健師と連携を取っています。職員は保護者の置かれている状況や状態を理解し、信頼関係を築き、見守りを続けています。
- ・食物アレルギーのある子どもの食事は専用のトレイ、食器、ネームプレートを用意しています。配膳は「除去食確認表」で調理室職員と保育士、保育士と園長または主任、保育室で保育士同士で確認しています。テーブルを別にし、席を少し離し、誤食のないようにしています。おかわりは給食室に取りに行っています。
- ・保護者が外国籍で子育て方針など文化の違いについて理解をしてもらえるよう園としてできる限り意向に添うようにしています。保護者の母国語の話せる職員の対応や連絡ノートは翻訳機を活用し、英語で記載しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
I－6 苦情解決体制 	・要望、苦情受付の担当者は主任、解決責任者は園長であり、玄関に掲示しています。 ・第三者委員2名の氏名、連絡先を玄関に掲示しています。 ・玄関に意見箱を置き、行事後に保護者アンケートを行い、意見や要望の把握に努めています。職員は送迎時に保護者に積極的に声をかけ、要望を聞くように心がけています。 ・他機関の苦情解決窓口として横浜市福祉調整委員会の連絡先を玄関に掲示しています。来年度の入園のしおりにも明記することとしています。 ・苦情を受けた場合には第三者委員を交えて対応する仕組みがあり、第三者委員会を設置して解決に至る流れを玄関に掲示しています。 ・園のみで解決できない場合は設置法人本部や西区こども家庭支援課と連携して対応することとしています。 ・要望や苦情に対しては、職員会議、必要に応じて行っているミーティングで報告、検討しています。過去の苦情・トラブルは「クレーム処理ノート」に記録として残しています。クレームの内容だけでなく、対応方法や対策を記入して保管管理しており、今後に活かすこととしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－1 保育内容〔遊び〕 	・各クラスとも、子どもの手の届く低い棚に絵本や各種のおもちゃを置いており、片付けもしやすいようにしています。子どもの成長や興味に合わせておもちゃを用意しています。現在おもちゃの量や種類は十分とは言えませんが、開園から2年目を経過し、少しずつ増やしています。 ・保育室にコーナーをつくり、グループでままごとやブロック遊び、おもちゃで一人遊びを楽しんでいます。 ・乳児は順番を守るという簡単なことから、幼児には、鬼ごっこやハンカチ落としゲームなどルールのある集団遊びを一斉活動に取り入れています。自分たちでルールを決めて遊びを发展させています。 ・プランターで野菜を育て収穫物をみんなで食べたり、スタンプなどの製作に活用しています。カブトムシや幼虫を飼育観察し、生き物を大切にする気持ちを学んでいます。 ・散歩は公園、近隣散策などで、季節を感じる機会を取り入れています。同一ビル内住宅展示場内の広場、近隣の大きな商店街など地域を知る体験を日々取り入れています。 ・乳児のかみつきやひっかきは職員がすぐに止めに入り、幼児のけんかには職員は見守りながら子ども同士お互いの気持ちを理解して解決できるようにしています。 ・毎週月曜日を縦割り保育の日とし、朝の会を全園児で行ったり、散歩先で一緒に遊ぶ時間を設けたりと、異年齢で関わる活動を通して育ちあえるようにしています。 ・園では保護者に対し「いってらっしゃいませ」「おかえりなさいませ」など丁寧な言葉遣いで接しています。子どもたちに対しても温かくきれいな言葉遣いを心がけ、子どもと信頼関係を築くよう配慮しています。 ・公園に行くときは、広場、アスレチック風の遊具のあるところなど年齢や目的に応じて選んでいます。公園の小径を利用してダッシュやジャンプ、ケンケン遊びをしています。縄跳びはによりよろや波を跳ぶ簡単なことから個人の縄跳びまでつながるようにしています。乳児は保育室内で、大型のソフトブロックを山のようにして昇ったり、ハイハイでトンネルくぐりなどをして遊んでいます。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- ・職員は子どもの様子を見ながら、個々に盛り付け量を調整するなどの対応をし、完食の喜びを味わえるようにしています。乳児にはスプーンやフォークの使い方も教えながら、手づかみで自分で食べようとする意欲を大切にしています。
- ・2歳児クラスのお手伝いはエプロンやタオル配り、3歳児クラスから配膳の手伝いがあり、年齢に応じた当番活動をしています。クッキング保育は1歳児クラスから食育計画に基づいてスイートポテトやクッキー作りを行っています。食育の一環で調理担当職員が三食食品群の話を子どもたちに聞かせるなど楽しみながら食への興味関心を育んでいます。
- ・調理担当職員は毎日クラスをまわり、子どもたちの食欲や食べている様子を確認したり、子どもに感想を聞いたりしています。
- ・毎月全職員参加の給食会議を開き、子どもの嗜好を把握、確認しています。2週間サイクルの献立のため、次回に活かす事ができます。園の給食会議で出された意見は設置法人本部の給食運営会議で調理担当職員が報告し、本部作成の献立や調理の改善工夫に活かしています。
- ・玄関に給食・おやつのサンプルを展示、食に関する情報の掲示、献立のレシピを持ち帰れるようにするなど保護者にも興味を持ってもらえるようにしています。年度初めのクラス懇談会時に給食とおやつの試食会を開催して、園での味付けや食事内容、普段の子どもたちの食事の様子を知ってもらう機会としています。
- ・眠れない子ども、眠くない子どもに職員は眠りを強要しませんが、体を休めることの大切さを伝えています。
- ・1、2歳児は10分ごとにチェック表に呼吸のチェックをしています。姿勢やタオルなどが顔にかからないように見守っています。
- ・5歳児クラスは10月程度を目安に午睡をとらない日を設けています。4歳児クラスの迷惑にならないようにパーティーションを設け、ひらがなワークや製作などを行い、静かに過ごしています。
- ・自律している子どもは自分のペースでトイレに行っています。トイレトレーニングは保護者との連携を密にとっています。クラス懇談会においても保護者にトイレトレーニングは個人差があるので始める時期は個別対応で進めることを伝えています。失敗してしまった時には子どもの気持ちを傷つけないように対応しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・健康管理に関するマニュアルに沿って、子どもの健康状態は日常は送迎時の保育日誌に、年間の身体測定、健康診断、ぎょう虫検査の結果などは健康診断表、発達測定表に記録し児童票ファイルにまとめており、職員は把握しています。
- ・入園後の予防接種や既往症に関してはその都度保護者から知らせてもらい児童票ファイルに記録しています。食後の歯磨き指導は3歳児クラスから実施し、安全に歯磨きをするために椅子に座って行うよう話し、職員は見守っています。
- ・健康診断は年に2回歯科検診は年に1回実施し、健康診断票に記録しています。結果を保護者に当日中に文書で伝えています。嘱託医は近隣にあり、子どもの状況の急な変化にも柔軟に対応しています。
- ・感染症対応マニュアルがあり、入園時に配付する「入園のしおり」に乳幼児がかかりやすい主な感染症や、感染症から回復した際の登園許可証、登園届の必要の有無を明記し保護者に説明しています。園内で発生した時は玄関にクラス、人数、状況を掲示し保護者へ知らせています。最新の感染症情報は西区福祉保健センターからファクス、設置法人からメールが入ってきます。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



・設置法人作成の衛生管理に関するマニュアルがあります。横浜市の基準に沿った対応について、職員会議で検討しマニュアルの見直しを行っています。設置法人作成マニュアルに基づいた清掃と、清掃場所によって園独自の清掃手順を職員会議で話し合い決定しています。当番表と朝と帰りチェックリストの項目に沿って担当の職員が毎日清掃し、清潔適切な状態を保っています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



・安全管理マニュアルは設置法人の作成で地震や台風、火災などの災害に対応しています。毎月地震、火災発生等想定を替えて避難誘導訓練を実施し、消防署とは年に2回の通報訓練をしています。年に1回保護者への引き渡し訓練を実施しています。救急救命法の講座に7名の職員が参加し、設置法人の防災研修を12名の職員が受講しています。

・園児のケガは軽傷であっても保護者に説明し、保健日誌に記録し職員に周知しています。日誌の記録を基に職員会議で原因、対応を検討し再発防止に努めています。

・保護者から入園時に写真を預かり、玄関は事務室内で本人確認してから解錠しています。警備会社と緊急通報システムの契約を交わしています。職員は合言葉を決めて、年に2回不審者対応訓練を実施しています。月に1回神奈川戸部署生活安全課のスクールサポーターの巡回があり、近隣地域の情報提供や園の安全確認をしています。

<工夫している事項>

・神奈川県警戸部警察署の「交通安全教室」に園として申し込みました。全園児が参加し、婦警さんや着ぐるみのマモル君の、道路の渡り方や信号の見方、駐車場で遊ばないなどの話を聞き、交通安全に気を付けています。

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅱ－３ 人権の尊重



・職員は子どもの目線で優しくゆっくりはっきりとした言葉遣いで子どもに接しています。まだ言葉のコミュニケーションができない子どもたちには指差しや表情で気持ちをくみ取りながら、日常的な信頼関係を築く支援をしています。子どもの人権を尊重する大切さについて、職員会議で話し合い共有しています。

・手作りの仕切り、建具や柱のかげはプライバシーを守ることができ、一人になれる空間を設けています。

・守秘義務について職員は入社時に説明を受け、誓約書を提出しています。実習生受け入れ時にも説明をしています。保護者へ入園時に個人情報取扱いの説明をして、「子どもの写真掲載等に関する承諾書」の提出を得ています。

・日常的に子どもの気持ちや言葉を重要視して、遊びや順番、名簿で性別による区別をしていません。保護者への対応は家庭での役割の固定観念を持たず、家族状況を踏まえて対応しています。

Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



・入園説明会やクラス懇談会で運営理念・基本方針を保護者に説明しています。入園時に配付する「入園のしおり」に保育理念、保育方針を明記しています。

・保護者からの相談は内容に関わらず全て園長に報告し、園長や主任の助言を受けています。職員会議録の「保護者様ご意見欄」を活用して継続的にフォローできるようにしています。

・毎月園だより（クラスだより含む）を配付し、日々の保育の様子は玄関のホワイトボードで様子を伝えています。遊びや行事の様子の写真を玄関やクラスに掲示して知らせています。

・保護者との個人面談は年に1回で9割の出席があり、年に1回の保育参観日を保護者が都合の良い日を選ぶよう日程を組んで実施しています。

＜工夫している事項＞

・玄関にソファを2台置きサロンを作り保護者間の交流や情報交換の場になるようにしています。

・西区の保健師が講師として行った「救命講座」に保護者に参加を呼びかけました。

＜コメント・提言＞

・第三者評価利用者家族アンケートで、基本方針の保護者の認知度は51%となっています。日々の保育サービスや行事開催は方針に沿った内容であることなど、保護者の理解が進む取り組みが期待されます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

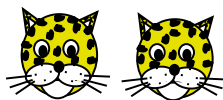


・年に2回の運営委員会は第三者委員の町内会長や民生委員が出席し、園の現状報告や意見交換の中で、施設への要望を把握しています。一時保育利用の保護者からの相談の中から地域のニーズを把握しています。

・西区園長会や幼保小連絡会に園長が出席し、地域の子育て支援ニーズに関連した議題について、園長が職員会議に持ち出して職員と話し合っています。

・今年度、軽井沢自治会館で開催した、地域の「第六区出前育児講座」に園長が出席し、子育てに関する話をしました。

Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能



・園の行事へのお誘いを中心に情報を発信しています。園の夏まつり開催を自治会掲示板へ掲示し、数組の地域の方の参加がありました。西区民まつりの際には西区内認可保育所等の案内パネルを展示しています。

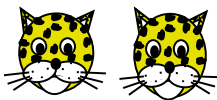
・月～土曜日の開園時間中の育児相談実施と担当者を設け、いつでも相談に応じる体制はできていますが、実績はありません。

・関係機関担当は園長と主任が担い、西区こども家庭支援課や横浜中央児童相談所と必要に応じて連携を取っています。

＜コメント・提言＞

・育児相談のために曜日と時間帯と担当者を設け、いつでも相談に応じる体制はありますが実績がありません。園の外壁やホームページにお知らせを掲示するなど、地域へより多くの発信が期待されます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	・夏まつりに自治会長や民生委員を招待しています。高齢者デイサービス事業所に4、5歳児クラスが訪問し、歌と合奏を披露しています。岡野中学校の体育館を使って運動会を開催しています。 ・同じビル内の一般企業の造形教室に4、5歳児クラスが参加し、「西区にこまちコミュニティ文庫」では本を読んだり遊びのスペースを利用しています。日常的な散歩コースに公園のほか、住宅展示場や小学校の校庭など様々な地域環境の場を取り入れて、地域の人たちと挨拶を交わし、顔なじみになっています。 ＜コメント・提言＞ ・開園から日が浅く、地域へ備品の貸し出しや施設開放はありません。保育園は貴重な社会資源の一つとして、例えば貸絵本など園が持つ特性を地域へ提供する工夫が期待されます。
Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供 	・設置法人のホームページで園の状況や遊びの様子など詳しい情報を発信しています。園のパンフレットを玄関に置き、来園者はいつでも持ち帰ることができます。自治会の掲示板に園行事を中心とした情報を掲示しています。 ・利用希望者の問い合わせ担当は主に園長で、パンフレットに基づいて説明しています。「電話お問合せ記録表」に問い合わせや見学者を記録しています。見学時には丁寧な説明を心がけているため、1回に3組までの対応としています。見学希望者の都合に応じ柔軟に対応しています。

Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ



・実習生・ボランティア受け入れマニュアルはあり、実習生やボランティアの受け入れ時には「実習のしおり」にて説明し、「実習・ボランティア登録シート」の提出をお願いする体制を整えています。

・実習生受け入れの基本的考え方・方針について園長が口頭で説明し、職員は周知しています。受け入れは主任が担当し、「実習記録」に記録をしています。全クラスを経験できるようプログラムし、各担任との毎日の振り返り、日誌の添削のほか、実習最終日に反省会を開き、園長、主任も出席し意見交換を行っています。

<コメント・提言>

・ボランティア受け入れの体制はありますが、実績がないためB評価になります。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類

V－１ 職員の人材育成



評価の理由（コメント）

・園長は園運営に必要な人材や配置状況を把握し、不足の場合は設置法人に要請して人材補充を行っています。

・設置法人が毎年社内研修計画を作成・実施しており、職員・非常勤を問わず参加することができます。内外の研修情報を事務所に掲示し、希望で参加できるようシフトの調整などで支援しています。職員は研修レポートを提出し職員会議や園内研修などで報告し、資料を回覧するなど園内で実践に活かす努力をしています。

・業務マニュアルは常勤、非常勤問わず一人一人に配付し、非常勤職員も園内研修を受講しています。指導担当者は主に主任で指導、アドバイスをを行いコミュニケーションを図っています。

<コメント・提言>

・設置法人本部での職員研修計画はありますが、職員の資質を向上させ人材を計画的に育成するための仕組み作りが期待されます。

評価分類

V－２ 職員の技術の向上



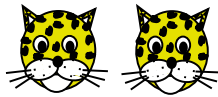
評価の理由（コメント）

・チェックリストに基づいて職員は年度末に自己評価をしています。職員の自己評価を基に職員会議で話し合い、園全体の課題、提案を出し園の自己評価を行っています。設置法人研修担当が「虐待児対応」の研修と指導に来園し、横浜市中部療育センターの巡回指導やスクールサポーターの具体的指導・アドバイスを受けています。

・年間・月間指導計画、週案、保育日誌には評価・反省の欄があり、評価や振り返りをする書式が定型化されています。振り返りの記録には子どもの育ちの様子を丁寧に観察し、職員の関わり方や子どもが遊びやプログラムに意欲的に取り組む姿を書き込んでいます。指導結果を振り返り、評価・反省をして結果を職員全員で話し合い、次の指導計画に反映させています。

・職員の自己評価を基に、職員会議で話し合い、園の自己評価を行っています。職員の自己評価及び園の自己評価はファイルして玄関の棚に常置しており、保護者はいつでも確認することができます。

V-3 職員のモチベーションの維持



・園長は可能な限り、主任・現場職員に権限を委譲しています。緊急時の対応処置についての最終的結果責任は園長が負う体制になっています。

・園長は職員の改善提案や意見を職員会議や日常会話の中で把握し、いつでも職員と個別に話ができる環境を整えています。「行事計画書（及び反省）」の書式があり、職員が意見・反省を提出しています。また、職員意見箱を設置し、それを利用して意見や提案ができる仕組みがあります。

・園長は職員との年に2回の面談で満足度・要望・意向などを把握しています。

<コメント・提言>

・職員の経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されるよう望まれます。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI-1 経営における社会的責任 	・職員が守るべき法・規範・倫理などは正社員・常勤職員用と非常勤社員用の就業規則で明文化されており、職員は入社時研修により周知しています。設置法人としてコンプライアンスプログラムに基づいた運営をしています。 ・園の経営、運営状況は保護者から求めに応じて公開することとしています。 ・設置法人本部での園長ミーティングや西区の園長会、幼保小連絡会などで報告された他園の事例などは臨時のミーティングで話し合い、自園のルールを再確認しながら職員のモラルアップを図っています。 ・牛乳パック、段ボール、色紙の端切れなど廃材を制作に活かしています。職員は保育活動に必要なテーブルや衝立など廃材を利用して手作りしています。節電、節水など省エネルギーを職員は心がけ、歯磨き中は水を流しっぱなしにしないなど子どもたちにも呼びかけています。 <コメント・提言> ・環境に配慮する取り組みの明文化が期待されます。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・こども子育て支援新制度施行により、保育時間の変更がありました。園として時間の変更をしないことを懇談会にて保護者に説明をしています。 ・園行事にこだわらず、日常の保育でも事務職員、調理担当職員や設置法人担当職員などと協力をしながら取り組んでいます。 ・主任は職員一人一人の性格やタイプを見極めながらコミュニケーションを図っています。積極的に保育に入るなど現場と関わりを持ちながら、園全体の保育を把握し、職員に適切な助言を行ったり相談に乗りながら良好な状態で仕事に取り組めるように配慮しています。主任は時には園長と職員の橋渡し役となっています。

VI-3 効率的な運営



・事業運営にかかわる情報の収集・分析、次世代の組織運営に備えては設置法人本部の担当部署で行っています。園長は、設置法人本部での園長ミーティングなどで情報を得て、職員会議やミーティングを利用して職員に周知しています。

・園の中長期的な視野に基づいた方向性について今年度計画を策定しています。ビジョンとして「保育士の人材育成及び質の向上」「職員が生きがいを持てる職種」「地域との交流連携」「保護者のニーズの把握について要望や苦情に適切な対応を図る」「安全管理」の5項目を定め取り組み始めています。

・運営に関して、設置法人本部は関係する外部の機関や専門家などの意見を取り入れています。

利用者家族アンケート

事業所名：ほっぺるランド横浜岡野

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数49名、全保護者45家族を対象とし、回答は33家族からあり、回収率は73%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態で評価機関が回収しました。

【特徴の記述】

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、「満足」回答が52%、「どちらかと言えば満足」回答が42%、総合満足度は94%でした。

◇ 比較的満足度の高い項目

- 1) 問4 生活 給食の献立について 総合満足度 100%
- 2) 同上 お子さんが給食を楽しんでいるか 総合満足度 100%
- 3) 同上 基本的生活習慣の自立についての取組 総合満足度 97%
- 4) 同上 お子さんの体調への気配り 総合満足度 100%
- 5) 問5 快適さ 落ち着いて過ごせる雰囲気 総合満足度 97%
- 6) 問6 園との連携 お子さんに関する重要な情報 総合満足度 97%
- 7) 問7 職員の対応 お子さんが園生活を楽しんでいるか 総合満足度 100%

◇ 比較的満足度の低い項目

- 1) 問3 年間の計画 年間の計画に保護者の意見・要望 総合満足度 70%
- 2) 問6 送迎時のお子さんに関する情報交換 総合満足度 82%

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	6%	45%	12%	31%	3%	3%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	71%	29%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	33%	30%	3%	0%	31%	3%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	30%	49%	9%	3%	9%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	21%	67%	0%	3%	6%	3%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	46%	48%	0%	6%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	48%	46%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	36%	43%	15%	6%	0%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	21%	64%	9%	6%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	15%	55%	3%	3%	24%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	58%	36%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	55%	33%	6%	6%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	52%	42%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	55%	30%	9%	0%	6%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	61%	27%	12%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	39%	46%	12%	3%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	76%	24%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	76%	24%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	64%	33%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	46%	42%	6%	6%	0%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	42%	18%	6%	3%	31%	0%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	67%	33%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	67%	27%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	58%	36%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	64%	33%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	70%	24%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	42%	52%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	45%	46%	3%	6%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	45%	43%	6%	3%	0%	3%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	55%	30%	12%	3%	0%	0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	52%	30%	12%	3%	3%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	45%	52%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	52%	39%	0%	6%	3%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	55%	30%	6%	3%	6%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	70%	24%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	79%	21%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	40%	12%	3%	0%	45%	0%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	67%	24%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	49%	42%	0%	6%	3%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	52%	42%	6%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 28 年 1 月 8 日

事業所名：ほっぺるランド横浜岡野

【1 歳児】

＜お正月遊び＞

会場の 4、5 歳児クラスの他の子どもたちより少し離れたカーペットが敷いてある場所に担任と座っています。正月遊びの説明の話には興味の無い様子でしたが、だるま落としが上手く成功し、前列の子どもたちから拍手が起こるとつられて拍手します。その後のけん玉、お手玉など興味津々の様子で盛り上がっていきます。最後に獅子舞が登場すると会場は大騒ぎです。最初何が現れたのか分からずぼかんとしていた 1 歳児ですが、獅子頭（園長手作り）の迫力に大泣きしたり、固まってしまったり、ほとんどの子どもが泣き顔でお獅子と記念撮影となりました。

＜食事前＞

保育室の隅にコーナーを作り、絵本の読み聞かせをしています。読み聞かせに興味を持たず、おもちゃで遊んでいる子どももいます。CD に合わせ職員が歌いながらはらぺこおあむし絵本を読み進めると、みんな一緒に歌いだします。手洗いが済み、席についた子どももリズムをとっています。職員についていき、食事の乗ったワゴンを押してくる子どももいます。「お手伝いありがとう」と言われ、得意気な表情です。

＜食事＞

3 グループにそれぞれ職員がついて食事が始まります。スプーンと手づかみ両方で食べています。手づかみが多い子どもには「スプーンもがんばろうね」とさりげなく促しています。子どもの食べる様子に合わせて「良くカミカミしようね」「ごっくんできるかな」と声をかけています。おかずを食べやすいように茶碗に移した子どもを見て「わあ、〇〇ちゃんよく考えたね～」と驚いています。食欲旺盛で「おかわり」と皿や茶碗を差し出して職員に伝えています。ごちそうさまをすると自分で濡れタオルで手と口をきれいにした後、職員が再度仕上げ拭きをしています。

＜午睡前＞

食事が終わった子どもからトイレの近くに設定したコーナーに行き、トイレ、紙パンツを替えたり、着替えをしてもらっています。着替えが終わるとコーナーにあるはめ込みパズルや木の電車や車など自分で出して遊んでいます。

【2 歳児】

＜お正月遊び後＞

保育室に戻ってからも大泣きが続いています。職員は「みんなお茶飲もうね」「獅

子舞さんに頭かんでもらうと元気になるんだよ。先生もかんでもらいたかったな」など落ち着くように話しかけますが、「こわかったの～」とまた泣き出す子どもがいます。強がって「ぼく平気」と言う子どもに、「じゃ、また会いに行く？」と職員が聞くと「いい！！」と断固拒否です。「みんなは、獅子舞さん見たことないから怖かったんだね。でももう見たから大丈夫だよ。そうだ。今日の給食何だろうね～。給食の前にトイレ行こうね～」と上手く話題を変えていきます。

【3歳児】

<食事>

子どもは自由に置かれた名前入りのトレーの前に座ります。調査員が入っているためか皆、黙々と食べています。「お話ししながら食べていいのよ」の職員の声にあちこちでお話が始まりました。話題は専ら先程行われた、お正月遊びに出てきた「獅子舞い」について盛り上がります。中に誰が入っていたか、頭をぱくっとした口は牛乳パックだった、〇〇先生のズボンを履いていたなどなどです。給食職員の〇〇先生が入ると、口々に問いたしますが〇〇先生は「みんなの給食を作っていたんだよ」と否定すると子どもの殆どがその言葉を信じますが、一人の子どもは納得できない様子でした。その間、担任は子どもを見周り「食べたいものを体の前に持ってくる」と食べやすいよ」などとやさしく声をかけていきます。まだ食べたい3人を残して一齐に「ごちそうさまでした」を言って歯磨きを順にしていきます。

<排泄>

職員は活動の前後にトイレを促しています。活動ごとに強制的な言葉はありませんでしたが、それぞれ半分ほどの子どもがトイレへ向かいます。

給食後のトイレではウンチをした子どもが「でたー」と扉越しに職員に声を掛け、職員が「まず自分で拭いてごらん。そのあと先生が行くよ」「ふけたー」「よかったね」とのやりとりがありました。

<室内遊び>

今日は朝から園児全員でお正月遊びを楽しみました。各保育室に戻って、3歳児は職員手作りのサイコロを使ってすごろくをしています。申年に因んでサル顔のサイコロの目になります。小さいフラフープを並べてサイコロの数だけ進みます。ケンケンとびや両足とび、飛行機あるきなど子どもが自由に考えて職員の手を借りながら進みます。職員の「かっこいいね」「いち、に、さん、・・・」の声に子どもは「にこっ」としています。ゴールした子どもはお友だちを見守っています。職員の「お友だちの応援の声が聞こえないよ」に「がんばれ、がんばれ」と口々に応援が始まりました。全員がゴールして「すごろく初めてやったけどこれからも練習していこうね」の職員の話に「はい」と大きな返事でした。

【4、5歳児】

<食事>

班ごとにテーブルに着きます。マスカット、ブルーベリー、ストロベリーの班名は子どもたちが考えて決めました。各班に3人の5歳児が一人ずつ入ります。相談室まで来て調査員へ食事のお誘いの声掛けをしたのは揃って5歳児です。

「いただきます」早々にトン汁をこぼしてしまい、職員がテーブル拭きを渡すとその子どもはテーブルを拭き、職員からおかわりをもらいました。すると間もなく別の子どもが「落ちちゃった」とおかずがのったお茶碗を床に落としてしまい、同じテーブルの二人が続けてこぼしたので笑いが生じましたが、誰かが「笑っちゃいけないんだよ」と注意すると、笑った子どもたちは黙って食事を進めています。職員が「どうしてこぼれたのかな。体をまっすぐにして、テーブルに近づけるといいよ。そして手を振り回さないの」と伝えています。子どものおしゃべりには常に身振り手振りが付き物のようです。他の班でも職員の同様な声かけが聞こえます。

食事が終わった子どもはイスを部屋の中央に運んで並び、本を読みながら歯磨きの順を待っています。図鑑棚とお話本棚が離れた棚に、見やすいように表紙を手前に整然と置かれ、厚い図鑑を多くの子どもが選んでいます。

<室内遊び>

異年齢で全園児が参加した正月遊びの続きをします。自分で作ったけん玉で遊びます。紙コップを2つ上下に底をつないで紐を通し、その先に玉がついています。職員がやり方の注意を話します。隣の子どもの近くと紐が絡んでなかなか外れないことを身をもって見せています。玉もなかなかコップに入らず、職員にとってもむずかしいようです。一人の子どもが膝を少し折ってヒョイと入れています。7、8回成功していましたが、少しも入らなかった子どもが「20回入った」と自慢しても、二人の間にいさかいは生じません。

職員は、成功したいのにむずかしくてできない子どもの後ろにまわって、手を取ってやり方を教えています。職員もクラスの子どものもそれぞれ何とか成功させようと必死です。正月らしい穏やかな雰囲気でした。

第三者評価 事業者コメント

第三者評価受審の話を伺った時、開園 2 年目での受審は時期尚早ではないかと懸念いたしましたが、自己評価を行い改めて自分の保育と向き合い、全職員が共通の視点で話し合う良い機会になるのではないかという思いで受審しました。

評価項目に添って確認をしていく中で、保育園の要となる保育理念・保育目標についての共通認識や理解が出来た事、また項目ごとに確認をしていくことで一つの課題に対しての感じ方、関わり方の違いなどがあることが分かり、細かく共通認識を持てたことは本当に良かったと思います。

また、保護者の皆さまからのアンケートでは率直なご意見を伺う事が出来ました。まだまだ始まったばかりで基盤を作っている所ではありますが、アンケートで良い評価をいただき点に関してはこれからも質を落とすことなく継続していけるようにしていきたいと思います。また、満足度の低い項目につきましても真摯に受け止め、改善されるよう職員一同努力し、さらなる質の向上につなげていきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中アンケートにご協力頂きました保護者の皆さま、並びにご尽力いただきました評価機関の皆さまに心より感謝申し上げます。

株式会社テノ・コーポレーション
ほっぺるランド横浜岡野